

ケーススタディ <京都府立山城高等学校の場合>

京都府立山城高等学校では、新しく設置した文理総合科の第一期生の修学旅行で、マレーシアのクアラルンプールを訪れた。文理総合科は、文系と理系の双方を伸ばし、大学で必要となる総合的な知識を得るための学科として創設。また、語学力とグローバルな視野を備えた人材育成にも力を入れる。初めてのマレーシア修学旅行実施について、田内浩教諭にお話を伺った。



【実施日時】 2008年11月28日～12月2日

【参加人数】 240名

Q?初めての海外旅行でマレーシアを訪れた印象はいかがでしたか?

A 私自身は、マレーシアに対して「穏やかな優しい国」、「元気をもらった」という印象を持ちました。マレーシアの方々は非常に優しく、カリカリした雰囲気がありません。いつでもこやかに接してもらえたので、街中でもリラックスした気持ちでいられました。また同時に、「これからさらに頑張っていこう」という前向きな勢いを感じられたことが、日本と一味違う点だったように思います。我々も頑張ろうと、刺激を受けました。

生徒達も各自さまざまな思いを抱いたようですが、人との交流に関しては誰もが共通して、「大変良かった」という感想です。今回、マラヤ大学の学生との交流会を中心にプログラムを組み立てましたが、お互いに文化紹介をしたりゲームをしたり、楽しそうな様子が見られました。



Q マラヤ大学との交流に至った経緯を教えてくださいませんか?

A 旅行会社を通していくつかの学校を紹介してもらい、修学旅行の一年前に教員だけで下見に行った結果、ぜひマラヤ大学を、と指定しました。理由は、日本に興味があり、日本語を勉強したいと考えている学生が多いためです。実施時期がちょうどマラヤ大学の夏休みと重なっていたものの、日本語を専攻している学生や日本語サークルの学生を中心に、十数人ほど集まってもらいました。交流にあたり、マラヤ大学の学生さん達は積極的に日本語を喋ろうとしますが、こちらの生徒には、できるだけ英語で喋りなさいと指導しています。したがって、英語・日本語ミックスでのコミュニケーションとなりました。



交流プログラムは朝9時からお昼を挟んで15時くらいまでです。その中で大きな柱となるのが、本校生徒によるプレゼンテーション。グループごとに、パワーポイントを用いて英語で日本を紹介しました。生徒達はこのプレゼンテーションのために前々から準備を重ねており、本番では完成させた原稿を携えて、かなり緊張していたようです。しかしその後、マラヤ大学の学生が日本語の歌を歌ってくれたり、また、グループごとにキャンパスツアーに出かけたりする中で打ち解けていました。

Q 事前・事後学習にはどう取り組まれましたか？

A



質問やクレームはまったくありませんでした。毎年一度、保護者の方には修学旅行説明会を開いています。今回は行き先を変更したことや船を利用することを考慮して、5月と9月の二度行ないましたが、特に反対意見は出ませんでした。察するに、マレーシアにまだ馴染みがないので、まず実施してみないことには何とも言いようがなかったのかもしれませんが。行って帰ってきてから生徒本人に聞こう、という心境でしょうか。

修学旅行後はホームルームを使って、「文化や宗教が異なる国の人々とともに、世界の中で我々日本人はどのように生きてゆかなければならないか」を考えさせる話をしました。自分が当たり前だと思っている日本の常識が世界の常識と同じではないことを理解し、この新しい学科から世界へ眼を向けていくように、という指導内容です。



生徒たちは現地に行って完全に「体験」した後ですから、ホームルームでのこの話も心に届き、「なるほど」と分かってもらえたようです。修学旅行前には大阪の JICA を訪れて海外協力隊員の活動も見ており、その影響もあってか、帰国後には「世界に役立つ仕事をしてみたい」と言う生徒がいました。

Q 今年もまた、マレーシアで実施するそうですね

A はい、6月にはまた、文理総合科2期生の2年生がマレーシアへ旅立ちます。今年は新しい試みとして、クアラルンプール郊外で1泊のホームステイを取り入れています。学校交流も続けます。ただ、マラヤ大学は日本で言えば東大にあたるハイレベルな大学で、有意義な交流ができるものの、あいにく夏休み期間となっています。そこで今年の2年生の担任は、40人ほどの人数を集められる別の大学と、交流を企画しているとのこと。



マレーシア修学旅行は、日頃せまい社会で生活している自分達が、これから広い世界に出て行くにあたって、何が大切かを考えさせる機会となりました。マレーシアは、住んでみたいな、と思うような国です。これからマレーシアへの修学旅行生も増え、時代とともにさまざまな変化が訪れるかもしれませんが、いつまでも、ゆったりとした本当のマレーシアらしさが失われないことを願っています。

— どうもありがとうございました

マレーシア海外語学研修実施の流れ

京都府立山城高等学校

- 1 平成17年度：文理総合科設置（設置は平成19年度）に向けての新学科コンセプトを受け、研修旅行を「海外語学研修」とする事を決定。
- 2 平成18年度：海外語学研修の行き先を、マレーシアクアラルンプール近郊に決定。
研修の中に、マラヤ大学との交流 現地日本企業での工場見学を計画。
- 3 平成19年：現地日本企業を「ヤクルトマレーシア」に決定。
旅行積立金開始
地理の授業において、マレーシアの学習を重点的に行う。
7月に現地下見を行う。マラヤ大学、ヤクルトマレーシアとの打合せ等を行う。
夏休みにパスポートの申請・取得を行う。
- 4 平成19年秋：マレーシア下見の様子を生徒に説明。同じく保護者会において、保護者に説明
- 5 平成19年冬：マラヤ大学での生徒プレゼンテーション作成。（普通科スキー研修中に実施）
- 6 平成20年春：マレーシア政府観光局の紹介により、本校でマレーシア民族舞踊を見せてもらう。
- 7 平成20年度：活動班、ホテル部屋割り、バス座席、食事座席などの決定
5月に保護者最終説明会を実施
6月事前最終チェック。結団式の実施
「マレーシア海外語学研修」
HRにて、アンケート、事後指導。
- 8 平成20年秋：マレーシア政府観光局の作成したビデオに上映。
平成20年冬：2期生との交流会によりマレーシア研修の一部を紹介した。